広島市生活支援体制整備事業広報紙　第１０号（令和４（２０２２）年１１月発行）

ひろしまええとこ通信

題字：安芸区「矢野の家」辰巳珠美さん

前号に引き続き、広島市各区の“ええとこ”について、担当の生活支援コーディネーターから報告します！！

南区　①「ありがとう」を増やすために

ひとりひとりの能力を活かした豊かな地域コミュニティづくりの実現を目指し、９月から月１回、３回コースで、荒神地区の方を対象に「生活支援サポーター養成講座」を開催しています。

開催にあたって、荒神地区社会福祉協議会や地域団体に共催をいただくとともに、複数企業から社会貢献活動の申し入れがあったため、それぞれの専門性を活かし、講座の講師としてご協力いただきました。

１回目は、「健康」をテーマに、骨密度や筋肉量の測定による健康チェックや、薬剤師による薬の話、栄養士と理学療法士による健康体操の指導など、盛りだくさんな内容となりました。

２回目は、金融機関による「お金」をテーマにした講座で、認知症になっても自分の預貯金を守りながら地域で暮らし続けるための方法等を、みんなで一緒に学びました。

３回目は、地域の方からの要望で「そもそもボランティアってなに？」というテーマで開催予定です。

誰もが活躍できる役割があることで、地域に「ありがとう」の声を増やしていきたいです。

１回目の健康講座の様子

毎回終了後に記念撮影を行っています（２回目）

南区　②広島大学学生と一緒に学ぶ地域づくり

南区社会福祉協議会（以下　南区社協）と翠町地域包括支援センターが合同で、広島大学３年生を対象とした地域療法学の授業で、２７名の学生に対して、９０分お話ししました。

コロナ禍により、今回の授業は３年ぶり、３回目の開催でした。これまでは、南区社協のボランティアセンター等の見学も兼ねて学生に来てもらう形で開催していましたが、今回は初めて広島大学の教室に出向いての授業となりました。

病院の患者や施設の利用者への支援のみならず、多職種と連携して地域で活躍する作業療法士の育成が重要となっており、地域生活の中で本人に寄り添った支援が求められています。

「将来、リハビリ職を目指す学生たちに、そのための意識づけとなるような話をしてほしい」という教授の意向を受け、南区社協からは、地域で生きがいや役割をもって生活している方の紹介や「通いの場」の大切さなどを伝えました。

学生たちは自分の祖父母をイメージしながら聞いていたようです。

また、「通いの場」の立ち上げ方法についてや、若い方の参加を促す方法についての質問等も出ました。

授業中の様子（右端は花岡教授）

将来の夢を全力で応援したいと思いながら伝えました。
「近い将来、一緒に仕事ができたらいいな」なんて私たちも夢を見ています。

生活支援コーディネーター　黒瀬・　泉

安佐北区「　　ケア　　」を世の光に！プロジェクト始動！！
～安佐北区域協議体の取組（途中経過）～

安佐北区域協議体では、令和３年４月に亀山で発生した介護殺人事件を契機として、令和３年度から「老々介護、男性介護者の社会的孤立を考える」をテーマに、これまでに、アンケートやグループワークを重ね、令和４年７月にはワークショップを開催する等して協議体で実施する取組について検討してきました。そして、令和４年１１月１日に令和４年度第２回安佐北区域協議体を開催し、令和５年度以降から数年かけて取組んでいくための基本的な枠組み（目指すべき方向性・理念やプロジェクトの柱等）について合意しました。

１　「私ケア貴方」を世の光に！

当事者の方々の意見やこれまでの議論の積み重ねから、目指すべき方向性・理念を決めました。それが“「　　ケア　　」を世の光に！”です。この理念に込めた思いは以下の２つです。

① 「私」と「貴方」の間に生まれる“生の営み”がケア！「私」と「貴方」という意味を込めたスペースを「ケア」の前後に挿入し、「　　ケア　　」とすることで、ケアの双方向性を端的に表現しました。

② 「私」と「貴方」の間に生まれる「　　ケア　　」という営みは、「共に生きることの意味や豊かさ」をたくさん秘めていることを積極的に捉え、それを社会に伝えていくことによって私たち自身の在り方や社会の在り方を変革していくことを究極的に目指していくための決意表明として、「　　ケア　　」を世の光に！（「介護を必要としている方と介護者の間に生まれる意味と豊かさ“を”世の光に」）としました。

２　プロジェクトの３つの柱

～　第一の柱　～ 「　ケア　」を世の光に！ キャンペーン	～　第二の柱　～ 当事者とその家族の 居場所づくり	～　第三の柱　～ 当事者とその家族が社会 参加できる支援体制づくり
・社会変革に向けて、不特定多数の価値意識へアプローチする、イベント（大会・お祭り）や講座等を検討していきます！	・介護を必要としている方とその家族が安心できる居場所づくりや息抜きができる企画を検討していきます！	・区内の大学や企業・個人ボランティア等と協力し、安佐北区お助け隊（区の生活支援ボランティア団体）の組織化等を検討していきます！

３　今後の展開

今後は、できるだけ多くの方々と共に考え・協働していくために、一先ず部会や委員会の発足に向けて関係団体の組織化と調整を行い、来年度から順次取組を実施していくための準備を行っていく予定としています。

生活支援コーディネーター
渡部　・　加納

まだまだこれからという所ですが、とりあえずの途中経過報告とさせていただきます。

中区　通いの場でのたくさんのええとこ！

中区では、高齢者の誰もが参加でき、介護予防に資する様々な「通いの場」の活性化を図るため、現在２９団体が地域高齢者交流サロンの助成事業を活用し、各地区で様々なサロン活動を行われています。
今回は、本助成事業を活用している３団体の活動実践についてご紹介します。

①　エンジョイ体操（千田地区）
活動場所：広島ガストピアセンター６階ホール

ごぼう体操で、
みんなですっぱい梅干を想像中！

エンジョイ体操は、令和３年 11 月に発足しました。世話人の岡吉さんは、コロナの影響により活動場所を失った地域の方が増えたことを受け、活動場所を失った方の居場所作りのために国泰寺地域包括支援センターと連携してエンジョイ体操を立上げました。
活動場所は広島ガストピアセンターで、民間企業の貸出施設です。参加者の多くが歩いて通うことができるようにするため、立地のよいところにある企業の施設に目をつけました。参加者の皆さんが健康寿命を延ばして地域の中で自分らしい暮らしを続けられるように活動しています。（談：エンジョイ体操世話人　岡吉真由美さん）

②　いきいき１００歳体操江波東２（江波地区）／　活動場所：江波児童館

近隣住民より、「今ある体操の場所が遠くて通いにくい」、「近くに体操する場所があれば・・」の声から、江波東２丁目町内にある江波児童館の館長さんに会場利用について相談したところ、児童館の一室を開放してもらえることになり、令和３年度より活動をスタートしました。立上げにあたり、機材（プロジェクター、スクリーン）を補助金で購入しました。得意のそば打ちを披露したり、「我が家のちらし寿司」と題した調理実習の開催、歌が得意な参加者の歌教室など参加者の特技を披露し、生かす場にもなっています。（談：いきいき１００歳体操江波東２・江波東２丁目町内会会長　中村光伸さん）

③　LS チャレンジャー（吉島学区）
活動場所：吉島集会所

みんなでガラッキーを楽しみました。どんな軽スポーツなのかは、ぜひ調べてみてください＾＾。

主に光２サロンでいきいき百歳体操の参加者が体操後に参加されるサロンで、軽スポーツ活動を実施しています。
初めは、参加者がお茶を飲みながら雑談をされて散会していましたが、新型コロナ感染の拡大に伴い、室内で会話をしながらの飲食が難しくなりました。そこで、参加者の交流の時間を失わないようにするため、他のサロンでは行っていない軽スポーツのような活動が行えないかと考え令和２年７月に「LS チャレンジャー」のサロンを立上げました。助成金を活用しながら様々な軽スポーツを取り入れています（例：輪投げ、ダーツ、室内ペタンク、ボッチャ、ガラッキー、サイコロキューブなど）。戦略が必要な頭と体を使った軽スポーツを多く取り入れているのが魅力です。
（談：LS チャレンジャー・吉島学区社会福祉協議会　会長　平本祐二さん）

通いの場でのたくさんの“ええとこ”をお伝えしました。
これからも私たちにみなさんの“ええとこ”を教えてください！

生活支援コーディネーター
松田　・　川中

令和4年度 第1回広島市生活支援体制整備事業 市域協議体 開催しました！

令和４年９月２９日（木）、会場とオンラインのハイブリット型で協議体を開催しました。
集合も含めた形式は、令和２年度以来の久しぶりでした。

テーマ① 生活支援体制整備事業及び市域協議体のおさらい

生活支援体制整備事業で押さえたいポイント

「地域共生社会の実現の実現に向けて、共助の精神で
見守り支えあうことができる地域づくり」

そのための目標（充実するために意識するキーワード）

「**高齢者支援活動の担い手の拡大**」　「**地域に拠り所を持つ高齢者の拡大**」

意見交換（一部）

㈱セブンイレブンジャパン：香取氏
「閉店店舗の商品寄贈に向けて」
⇨

広島県生活協同組合：本浦担当部長
「生協ひろしまによる買い物サポートカーの取組紹介」
⇨

⇧

広島市民生委員児童委員協議会：原本理事
「マスクを外し、顔と顔でつながるコミュニケーション」

テーマ② 広島市域における地域の困りごと支援の情報共有

地域の困りごと支援の共通認識を持つことが必要

今後、地域での困りごと支援がより一層必要となる状況で、地縁組織等が長年実施している地域の支え合いや協同労働、シルバー人材センターの「てごサポ」等の有償を基本とした活動等、改めて**それぞれの目的や対象の共通認識が必要**との共有をしました。

地域の困りごと支援情報の冊子作成（見える化）

様々な組織の共通認識の醸成のために、それぞれがどんな困りごと支援を実施しているかを見える化することで円滑な情報共有が可能になるのではとの意見がありました。地域の困りごと支援活動の情報等を掲載した冊子を市域協議体として作成を進めていくこととなりました。

市域協議体の各構成団体との連携（社会貢献や講師派遣等）は、Ｈ３０年度に開催した市域協議体での意見交換で出たアイデアが、実際の取組につながってきているものが多くあります。今後も様々な組織での情報共有を大事にしながら、あらゆる視点・角度で地域活動の支援につなげていきたいと思います。　**生活支援コーディネーター　箱崎・藤本**

協議体とは…？

自分たちが住む地域のことを、地域に関わるみなさんで、「こんな地域だったらいいね」、「どうやって実現しようか」といったことを話し合う場のことです。

広島市では、小学校区を基本とした「**支え合い協議体**」、区ごとに話し合う「**区域協議体**」、市域で解決すべき課題について考える「**市域協議体**」の３種類の協議体があります。

＜各地で実践されている“ええとこ”をお寄せください！＞

地域活動に関する耳寄りな情報を教えていただき、定期的に発信していくことで、「ひろしまのええとこ」をみんなで共有できる情報紙を目指します。耳寄り情報は、市・区社協にいる生活支援コーディネーターへご連絡ください！

発行：　社会福祉法人広島市社会福祉協議会　地域福祉推進課　事業係
〒732-0822　広島市南区松原町５番１号　広島市総合福祉センター内
TEL：０８２-２６４－６４０４　　FAX：082-264-6413
Ｅメール：jigyou@shakyohiroshima-city.or.jp